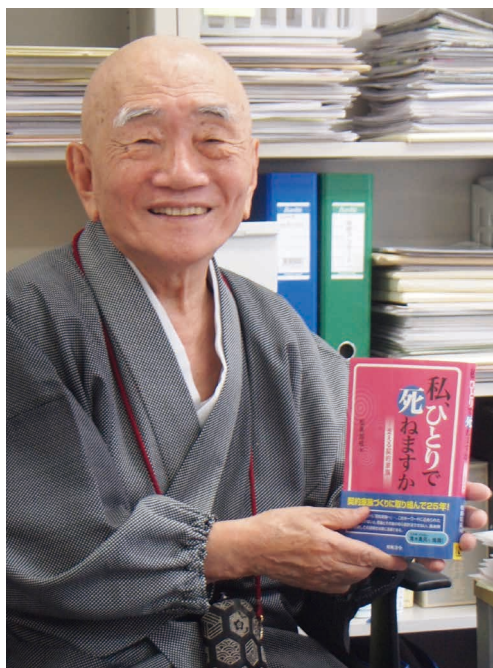


書籍

「生前契約」25年の体験が書籍に

具体例紹介し、理念を説く

NPOりすシステム創始者 松島如戒さん



著書を手思いを語る松島如戒さん

「家族代わり」経験を凝縮

生涯未婚を貫く人や、子供をつくらない人が増えている。親族、近所などとの縁を持たない人も増えてきている。そんな人たちにとって、自分の最期をどうまとめめるかは大きな問題だ。

自分の亡骸の処理や火葬、納骨はどうするか。死亡届の提出や、最後に住んでいた家の処分、電気、ガス、水道、新聞の精算も必要だ。

そんな不安や悩みを抱える人たちの「家族代わり」になって25年間活動してきた、NPOりすシステム（Living Support Service システム）の創始者であり、日本における合葬墓のルーツの一つである「もやいの会」の事務局長もつとめる松島如戒さんが、四半世紀の体験を著書にまとめた。

仕組みによって請け負ってききました。不安や心配を生前契約によって解決し、最後まで自分らしく生き抜こうと決めた契約者の方々の、代表的なケースを中心にまとめました。人生の手じまいを考える多くの人に読んでいただければうれしい」と松島さん。

水先案内となる情報を掲載

本書では約5000人にもものぼる契約者との交流のなかから、▽親戚との縁がない場合、葬儀を誰に頼むべきか▽娘がいるけど遠方にいる▽自分の死後、障害を持つ子供をどう守るか▽金を貸してくれないならホームの保証人を降ろす」と言われた…といった実際の悩みを掲載。

死後の事務には、死亡届の提出から、死装束、棺桶、霊柩車の選択、経、戒名、墓といったものに至るまで、さまざまな項目があることも紹介している。

また、りすシステムが立ち上げ

た生前契約が、どうやって生まれ、どのような理想を掲げ、どのような仕組みで運営されているのかといった解説もしている。

人生を自己決定で終える

「生前契約の裏付けとなる法律の解説をしつつ、できるだけ平易な内容にまとめました。生前契約の必要性は、今後ますます高まっていくはずですよ」

タイトルは「私、ひとりで死ねますか」とつけた。生前契約の立ち上げのきっかけとなった、ある女性から問いかけられた言葉だという。

「ひとりで死ねるか」という問いかけに対して、25年の経験から松島さんは、こう考えている。

「死は『他力』つまり誰かが後始末をしてくれるものだと考えられている。しかし実際には、死は『自力』つまり自己責任と自己決定によって迎えることが可能となっているのです」

私、ひとりで死ねますか 支える契約家族

- 第1章 生前契約って、どんな人が、どんな時に？
- 第2, 3章 人が死ぬとこんなにたくさんの仕事がある
- 第4章 「家族力」の減退を考える
- 第5章 「私、認知症にはならない」そんな自信ありますか
- 第6章 生前契約の理念と実務

定価(本体1500円+税) 松島如戒 著
日本法令 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-2-19(03-6858-6967(営業))

